

世田谷区指定有形文化財（建造物）

旧山田家住宅 一棟

指定年月日 平成二十八年二月一日

旧山田家住宅は、昭和十二年（一九三七）頃に建てられました。施主は橋崎定吉といい、米国で事業を成功させた実業家で帰国後にアメリカ風住宅の影響を受けてこの住宅を建設したと伝えられていますが、それ以外の詳しいことは分かりません。終戦後は一時進駐軍（GHQ）に接收されたようです。

昭和三十六年（一九六一）には画家で「南画院」（現特定非営利活動法人南画院）の代表として活躍した山田盛隆（雅号・耕雨）が購入し住まいとしました。

建物は洋風で、褐色のフランス瓦葺きの屋根に、クリーム色のリシン仕上げの外壁で下部には石張りを施しています。各室は機能ごとに分けられた独立性の高い洋風住宅の特徴をもち、洋室を中心とした和洋折衷の間取りとしています。一階は中廊下の南側に玄関と寄り付きの広間、客間、ベランダのある居間と食堂、北側には水回りと女中室が配されます。2階は家族の寝室と客間、床構えのある和室、納戸などが配されます。この住宅の特徴は、各洋室や廊下はそれぞれ模様を変えた寄木張りとした凝った仕様にしている点や、窓は統一した意匠の上げ下げ窓を多用している点があげられます。この他、ランドリーシュートを設ける工夫など、施主の生活文化に対する意識が反映されており、当時成城に住んだ人の生活の様子が伺えます。山田家の住まいとなつてから半世紀以上の間、水回りを除きほとんど改築されず、全体的にはほぼ当初の設計意図が維持されています。平成二十八年度の改修工事では山田氏が購入した昭和三十六年頃の姿を保存することにしました。



おしゃれな
おしゃれな
おしゃれな